sousei akita
曹青秋田

・第三十九回曹洞宗青年会東北地方集会　秋田大会『日本人の心』

・今期を振り返って　・ボランティア活動報告　・随聞会

第三十九回
曹洞宗青年会東北地方集会
秋田大会『日本人の心』

平成二十六年十月二十九日（水）秋田キャッスルホテルを会場に、「第三十九回曹洞宗青年会東北地方集会秋田大会『日本人の心』」が開催されました。

午後一時より一般公開で行われた第一部は、歎仏声明と詠讃歌による「東日本大震災　追悼と復興への祈り」の法要が厳修され、午後二時からの第二部では、竹田恒泰氏を講師に迎えての「古事記と日本人の心」と題した講演が行われ、東北各県からの曹青会員や一般参加者合わせて約一千百名が来場した秋田キャッスルホテル放光の間を埋め尽くし立ち見が出るほどの盛況となりました。

一般公開終了後、場所を変えて東北地区曹青会員による記念式典が行われ、大会は盛会裡に無事円成致しました。

【P４～５に記事を掲載】

今期を振り返って

「退任にあたって」

会長　鈴木　泰賢

まさしく「光陰矢のごとし」を実感した二年間でありました。最後まで頼りない会長ではありましたが、皆様のご協力により無事に任期を終えることが出来ましたこと、心より御礼申し上げます。

さて、まずもって先般の東北地方集会秋田大会におきましては、県内御寺院様、会員諸兄にご尽力頂きました事、紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

『日本人の心』と銘打って開催された秋田大会ですが、我々日本人の精神性、宗教観を見つめ直し、その素晴らしさを再認識して頂くことを目的としておりました。当日の講師をおつとめ頂いた竹田恒泰氏には、出雲と伊勢の二つの国家が統合したにも関わらず、戦いがあった痕跡も資料も全く残されていないことから、話し合いによって統合された事が明らかで、当時から日本人が和合の精神を尊重していた事、更にはそうした日本人の精神性と仏教の精神性は元々通じるものがあった事等々、熱く語って頂きました。日本人の精神には仏教の慈悲心と自然そのものを神と崇める神道の融合した「神仏習合」が深く息づいている事を再認識し、さらにはその素晴らしさを継承していくことこそ日本人の心の復興となる事を確信した大会となりました。

また、二月には伊勢神宮参拝研修旅行と、現地にて随聞会を開催致しました。講師には昨年の弁道会以来二度目となります皇学館大学教授の菅野覚明先生と、御子息で桑名宗社権禰宜の菅野倫太郎氏をお迎えし、神宮信仰の歴史と本質、神道の祭祀儀礼を御講義頂きました。神宮の成立の歴史と地位、三種の神器の本質、また実際に神道の進退作法などを講習頂きました。講習に続き次の日はいよいよ神宮参拝。西行法師の「なにごとの　おはしますかは知らねども　かたじけなさに　涙こぼるる」の歌を実感するほどの神聖さに満ち溢れており、日本人の心の本質に触れる貴重な機会となり、二年間の「神仏習合」に関する活動の集大成として相応しい研修旅行となりました。

最後になりますが、自由さと活動力が曹青の魅力であると思います。今後も前例にとらわれない様々な研修、活動を企画して頂くことを期待致します。ご指導頂いた御寺院様方、二年間お付き合い頂いた会員諸兄の皆様に心より御礼申し上げると共に今後益々のご活躍を祈念申し上げ退任の御挨拶とさせて頂きます。

鈴木会長と講演後の竹田氏

「卓ちゃん、副会長やってよ。」

副会長　中村　卓道

鈴木会長より電話を頂戴したのが、二年前の二月のことでした。それまでの私は、顔は県内にそこそこ売れている自信はあったものの（笑）秋曹青の事業への参加はほぼ皆無でしたし、ましてや副会長という重責を担うことになろうとは、微塵も考えたことなどありませんでした。しかし、安居中にご迷惑をおかけした先輩への恩返しだと思い快諾、総会にて推薦・承認をいただき早二年、間もなくその任から解放されようとしております。

この二年間は、これまでに経験したことのない様々な活動や事業に携わることができました。まず、秋曹青と切っても切り離せないのが、東日本大震災に対する支援、特に今携わっているのが、慰霊法要への随喜です。被災地の方々の未だ拭いきれない悲しみを少しでも癒して頂くため、また、実質的な支援が出来なくても、自分が僧侶である以上、お経なら読める、ただひたすらに祈ることは出来る、その大切さ

を痛感致しました。

そしてなんと言っても「神仏習合」をテーマとして研鑽を重ねた二年間の集大成、東北地方集会秋田大会を、鈴木会長を中心に秋曹青会員が見事一丸となって、無事圓成出来ましたことは、この上ない喜びでした。

この二年間、副会長として会へ貢献できたのかと自問自答する日々ですが、今後も微力ながら秋曹青事業に携わらせて頂き、何らかの形で恩返しできたら幸いです。年ばかり食って不勉強な私を副会長として迎えて頂き、またこの間たくさんの貴重な経験をさせて頂いて、誠にありがとうございました。

秋曹青、いいね！

名調子で懇親会を盛り上げた中村副会長

二年間を振り返り

副会長　奥山　真行

縁あって今期二年間副会長を務めさせて頂きました。副会長として、といいますか一会員として行事研修に参加させて頂きましたが、こんなに青年会行事に参加したのは事務局長をしていた時以来かと思います。今回鈴木会長のもとで神道を中心に修験道、民族信仰など今期のテーマ「神仏習合」について勉強させていただく中で、今までは仏教宗門、社会問題などをテーマに取り上げてきた青年会ですが、今回のテーマは目新しさもあり、普段よりたくさんの会員が研修に足を運んでくれたのではないかと思います。最後には伊勢神宮をお参りし、よい研修、よき思い出も作ることが出来ました。

今期の執行部は青年会東北地方集会を開催する重役を担っておりましたが、大会も無事に開催、円成することが出来ました。開催までには会長はじめ執行部役員、また会員の方々の多大な協力があり、秋曹青のまとまりや底力が発揮できた大会ではなかったかと思います。研修・ボランティア・東北地方集会と、この二年間有意義に過ごさせて頂きましたことを改めて感謝申し上げますとともに、今後も青年会が若手僧侶のよき研修の場であり続けることを祈念いたします。

任期を終えるにあたり

事務局長　山田　俊哉

今期事務局長を務めさせて頂きました。会長様初め、会員の皆様に多々ご迷惑、ご心配をおかけしましたこと深くお詫び申し上げます。ご指導、ご助力を頂きましたおかげでなんとか走りきることが出来ました。心より感謝申し上げます。

そもそもの初め、お声かけいただいたときに思ったのは、「会長の泰賢さんに言われたら断るわけにはいかない」と各配役に当たられる方々もそれぞれ同じ事を口にされていた事でした。会長さんのお人柄が、全くもって今期の成功の要因であったと思います。また、テーマ・方針も終始一貫したものであり、会員も安心して研修出来たのではないでしょうか。事務局も甘えて楽をさせて頂きました。

全曹青にも出向をさせて頂いておりますが、秋曹青の『まとまり』は誇れるものであると気づきました。他県会員から羨ましいとも言われます。秋曹青歴代の先輩方が築かれた好きな事をやらせていただける環境も、実は得難く大変有り難いものなのです。東北大会の大円成もそれらが現れた結果だと思います。

今後も微力ですがご協力させて頂きながら、曹青活動を楽しみたいと思います。

歴代の秋田大会事務局長３ショット

第３９回　曹洞宗青年会東北地方集会　秋田大会

日本人の心

第１部　歎佛声明と詠讃歌による　東日本大震災　追悼と復興への祈り

第２部　竹田 恒泰氏 講演　「古事記と日本人の心」

日本人のもつ「なごみ」の心

午後一時開演の法要に先立ち東日本大震災の発生からこれまでの秋曹青による慰霊と復興支援活動が舞台横のスクリーンに映し出されると震災直後の物資支援や足湯・行茶活動の様子、そして現地での慰霊法要などが紹介され、映像から引き続くような梵鐘の響きに合わせて歎佛法要が始まりました。場内を荘厳する進退や礼拝を繰り返す様子に会場全体が厳かな雰囲気で包まれ、詠讃歌の奉詠では一緒にお唱えをされる方もいらっしゃいました。

第二部では、作家で明治天皇の玄孫にあたる竹田恒泰氏をお迎えして演題にある古事記をもとに、天皇と仏教の関係についてや今期の秋曹青がテーマとしている神仏習合について、また国譲りとは、など多岐にわたった内容で、予定されていた時間を超えて熱くお話しいただき来場者の方々も大変感動している様子でした。

講演を聴いて、日本現存最古の歴史書といわれる古事記とは、日本の歴史を知るという面だけではなく元来日本人のもっている和（なごみ・やわらぎ）の心が見えてくる書物でもあり、仏教が日本に根付き神道や民間信仰などと交わ

上）当役６名が場内を荘厳　中）歎佛法要導師の鈴木会長　下）清水・柳川両師範による詠讃歌奉詠

上）竹田氏の講演に聞き入る聴衆　中段　左）前日準備の様子　中）会場入口の立看板　右）記念式典での誓願文の唱和　下段　左）あきた舞妓の踊り　中）ブラボー中谷氏のマジックショー　右）地協会長と各県会長による鏡開き

日本人の「美徳」とは

りながら習合していった理由も日本人の精神性と仏教とが深く共感しあった結果であったことや、仏教と同時に伝わってきた大陸文化や建築技術などを応用・発展させていった気概もまたそこから読み取ることができ、「日本人らしさ」を知ることにも繋がるものであると感じました。

一般公開講演の後には、会場を移して記念式典が行われました。仏祖諷経に続いて、ご来賓の方々からご挨拶をいただき、参加者全員で誓願文を唱和した後、今大会の実行委員長である鈴木秋田曹青会長から大会会長の渡辺東北地協会長の手を経て次期開催県となる岩手県の恵津森岩手曹青会長へと大会絡子が伝達され、式典は終了致しました。

午後六時からの懇親会では、秋田の芸者文化を復活させるべく誕生した「あきた舞妓」の二人による踊りや秋田を代表するマジシャン「ブラボー中谷」氏のマジックショーで大いに盛り上がり、親睦を深めながら『東北はひとつ』の想いを確かめることができました。

最後になりますが、全曹青、秋田県宗務所様、県内御寺院様、ご来賓等多くの皆様にご協賛ご協力を頂き、無事大円成となりましたこと深く感謝申し上げます。

大槌町「1000年後の未来へ」上映会参加

期日：平成二十六年七月二十一日
会場：大槌町中央公民館　大会議場

秋曹青からは七名が参加して、ドリンクコーナーの設置、飲物・ポップコーンの提供等上映会に協力してまいりました。

映画は東京に住む保健師の菊地頌子さんが東日本大震災の被災地である岩手・宮城・福島の三県を巡って、震災当時の様子を保健師たちの証言から記録していく活動を追いながら、保健師とは何か、そしてその活動から見えてくるこれからの姿を模索していくといったものでした。

上映後には、監督の都鳥伸也氏と兄で撮影に携わった拓也氏、元大槌町保健師の鈴木るり子氏に加え、急遽参加となった碇川豊大槌町長の対談が行われました。

大槌町・震災慰霊法要に参加

期日：平成二十六年九月十一日
場所：岩手県大槌町
江岸寺・旧役場前・吉里吉里漁港

「東日本大震災大槌町殉難者　犠牲者供養会」が行われ、北海道から熊本県までの僧侶約十六名が参加、秋田県曹洞宗青年会からは七名が参加しました。

旧役場前の法要では当会会長の鈴木泰賢師が、また吉里吉里漁港の法要では事業部長の新川泰道師が導師を務めました。

海岸では法要のあと、吉祥寺様総代の方から「何度も足を運んでいただき有難うございます。何とかこの三年半を迎えることができました。皆様がいたから、この日を迎えることができました。これからも共に歩んでいきたい。」と、ご挨拶いただきました。

国見町・仮設住宅年越し行茶に参加

期日：平成二十六年十二月十九日
場所：福島県国見町　大木戸ふれあいセンター

曹洞宗の復興支援室分室と全曹青災害復興支援部の企画により行われた年越し行茶に秋曹青として参加しました。この企画は主に飯館村、国見町より仮設住宅に避難されている方を対象に、普段は行っていないお酒と各地の鍋物を楽しんで頂く傾聴活動の一環行事で、今回で三回目となります。

秋曹青では『きりたんぽ鍋』を現地で仕込み提供しました。その他福島会津の『こづゆ』や『石狩鍋』、長野の『おやき』など沢山の料理を囲み、お酒をつぎ合いながら参加の皆さんのお話を伺いました。様々なご苦労の中でおられますが、笑顔を拝見することが出来ました。支援者と被災地の想いを繋ぎ、来年からの活動に繋がる貴重な機会となりました。

東日本大震災慰霊法要に参加

期日：平成二十七年三月十一日
場所：岩手県大槌町吉祥寺・山田町龍泉寺

震災から4年目となる3月11日、秋田県曹洞宗青年会では岩手県大槌町の吉祥寺様、山田町の龍泉寺様で行われた東日本大震災物故者慰霊・復興祈願法要へ参加しました。

当日の悪天候により秋田から移動できなかった参加者もいましたが、当地では寒かったものの屋外にても行事が行われ、地域の皆様、また全国各地からの青年僧と共に震災犠牲者のご冥福を祈り、住民の方々の安寧と早期の復興を祈願いたしました。

左）山田町龍泉寺
本堂にて歎仏法要

上）大槌町吉祥寺
大般若祈祷

左）浪板海岸へ行脚

写真提供：
全曹青　松樹恒史

随聞会　伊勢研修旅行

日程：平成二十七年二月二十四～二十六日
講師：菅野覚明先生（皇學館大学神道科教授）
菅野倫太郎氏（桑名宗社権禰宜）

平成二十六年度の随聞会として、今期二年間の『神仏習合』をテーマにした研修の総仕上げとすべく 伊勢神宮・熱田神宮参拝の『随聞会研修旅行』が二月二十四日～二十六日に行われ、会員十五名が参加しました。

初日は秋田空港から名古屋国際空港へ、その後鳥羽温泉郷のホテルに移動し講義を受けました

講師は昨年度の弁道会でもお世話になった皇學館大学神道学科教授の菅野覚明先生です。『神宮と伊勢の信仰』と題し、伊勢神宮の概要、成り立ち、また古事記を元にした神道の信仰について等のお話を伺いました。

その後、菅野先生の息子さんで神職の菅野倫太郎さんに、神社祭式の基本動作を実際に見せて頂きました。曹洞宗の動作との雰囲気の違いに、会員は興味深く拝聴しました。

菅野倫太郎氏による実演

二日目は伊勢神宮へ。菅野先生のご紹介で皇學館大学生の桐田さんに丁寧にガイドして頂き、外宮、内宮と参拝しました。その威厳、荘厳さ、スケールの大きさに圧倒されるばかりでしたが、国の成り立ち、有り様に心を巡らせました。私達の他に観光バスも大挙し大勢の参拝者がいましたが、皆、作法・礼儀深く参拝されている姿が印象的でした。

三日目はあいにくの雨模様でしたが、名古屋市内の熱田神宮に参拝。ボランティアガイドの佐々木さんをお願いし、二時間みっちりとガイドして頂きました。地域とのつながり、戦国時代や戦争を乗り越えた経緯をお聞きしながら、伊勢神宮とはまた違う信仰の深さを感じ、三日間にわたる研修旅行の幕を閉じました。

内宮　正宮

熱田神宮　本宮

誓願文

本日、東日本大震災の犠牲者の追悼と復興への思いを共有し、また『東北は一つ』の思いを抱く東北六県の青年宗侶が『日本人の心』のテーマのもと、ここ秋田に集い、深く法縁を結ぶ運びとなりました。

大自然の脅威を目の当たりにし、大切な方を失ったご遺族の方々、いまだ震災による心の傷が癒えない方々に対して謹んで哀悼の意を表すると共に、一日も早い復興を心より祈念致します。

震災以前の日本は個人の権利と権利がぶつかり合い、隣人同士が争い、地域のつながりは薄れ日本人が古来より継承してきた様々な美徳は廃れつつありました。

しかし、震災後各地から寄せられた多くの善意は、日本を根底から変える程の大きな力となりました。その力は正に管長告諭にある四摂法の『布施』の精神でもあり古来より日本人が継承してきた美徳でもあります。物でも心でも惜しみなく分かち合う菩薩行と、お互いを思いやり、譲り合う日本人の心。この二つが融合した時始めて東北の、日本の心の復興たるものと確信致します。

本日ここに集い、我々日本人が古来より培ってきた譲り合う心、助け合う心こそ菩薩行であることを再認識し、人々が心安らかに共に生きる事が出来る恒久の平和を心より願い、本来の道を見失うことなく精進弁道に邁進し、人々を導いていくことを東北の青年宗侶の誓願とするものであります。

平成二十六年十月二十九日

第三十九回曹洞宗青年会東北地方集会　秋田大会　参加者一同

編集後記　今期の広報担当として最後の編集となりました。会長さんから担当の声が掛かった時はあまり難しく考えず引き受けましたが、出来の良し悪しは別として広報担当という役割に学ばせてもらった思いがします。行事への参加でも内容把握に懸命だった分、充実した二年間となりました。ありがとうございました。

曹青秋田　第78号
発　行　能代市字仁井田白山13　倫勝寺内
秋田県曹洞宗青年会
発行責任者　鈴木　泰賢
編集責任者　奥山　一英
秋曹青ホームページ　http://www.sousei-akita.net/